

《チームえびす》

支援成果事例集

vol.
14

愛媛県内の中小企業の皆さまへ
課題解決の道標

経営
革新

創業

新商品
開発

6次
産業化

IT
活用

知的資産
経営

産学官
連携

販路
開拓

事業
再構築

はじめに

本年度は一昨年来続く新型コロナウイルス感染症の影響により、愛媛県においても多くの事業者の皆様が厳しい経営環境におかれた一年でありました。

そのような中で私たちが直面している不確実性やデジタル化の波は、今までにはない大きな変化をもたらしています。あらゆる事業者が、サプライチェーンやビジネスモデルの見直し、セールスやマーケティングの再構築、SDGs（持続可能な開発目標）に基づいた経営計画の策定など、従来の常識や戦略にとらわれない柔軟な発想による変革を求められています。

えひめビジネスサポートネットワーク「チームえびす」では、平成20年の結成以来、当財団をはじめとする県内の中小企業支援機関や金融機関、大学、公設試験研究機関などが一致協力して、えひめの中小企業・小規模事業者の方々や創業・起業を目指す方々が抱える課題の解決に向けて、様々な場面で連携しながら支援に取り組んでまいりました。

こうした状況の下、これからの時代に向け、地域経済の担い手である中小企業・小規模事業者の皆様の課題解決をより効果的で着実に図るためには、各支援機関がそれぞれの支援体制や機能を強化することはもちろん、「チームえびす」の支援ネットワークを活かし、支援機関が有する多彩な強みを生かしつつ、より緊密に連携して支援に当たるとともに、その支援成果を共有することで、速やかな解決に向けた道筋へ結び付けることが可能となると考えております。

このような思いから、このたび「チームえびす支援成果事例集 Vol.14」を作成いたしました。

この事例集は、中小企業・小規模事業者の方々や創業・起業を目指す方々が抱える様々な課題に対して、「チームえびす」の支援拠点のスタッフや専門家等が一丸となって、どのように解決に向けて取り組んだかをまとめたものになっております。

今後、この事例集が、より多くの皆様の課題解決の道標として、また、創業・中小企業支援に携わる方々の取り組みの参考として、広くご活用いただければ幸いです。

最後に、この事例集作成にご協力いただきました皆様方に、心から厚く御礼申し上げます。

令和4年3月

公益財団法人えひめ産業振興財団

理事長 大塚 岩男

Contents

支援成果事例集

経営革新

- 株式会社 ウテナ銘酒** 4
伴走型支援を活用したリキュールの販路開拓
松山商工会議所
- 15 ichigo (いちご)** 6
愛媛県産柑橘による魔法のクラフトコーラで新たな事業展開
公益財団法人えひめ産業振興財団 ビジネスサポートオフィス
- 旧鈴木邸** 8
古民家を活用した民泊・カフェ事業
公益財団法人えひめ産業振興財団 ビジネスサポートオフィス

創業

- しまのぱんかふえ tetote** 10
ベーカリーカフェ新規開業事業
中島商工会
- 上田 沙耶** 12
ゲストハウス立ち上げに伴うコンサルティング
株式会社 伊予銀行
- えひめアグリイノベーション起業塾** 14
えひめアグリイノベーション起業塾および一次産業応援ファンド活用による創業支援
株式会社 愛媛銀行
- センザノム** 16
学生の「研究」が「生業」に～創業支援と売上拡大～
公益財団法人えひめ産業振興財団 愛媛県よろず支援拠点

新商品開発

- 黒川 遼** 18
マジシャンが、子どもたちに届ける劇団「おとぎと魔法の劇場」を立ち上げ
公益財団法人えひめ東予産業創造センター
- atelier LUXE (アトリエリュクス)** 20
補助金活用によるECサイト・販売スペースの設置と新商品開発
砥部町商工会

6次産業化

企業組合高野地フルーツ倶楽部	22
女性農業者グループが挑む6次産業化	

愛媛県中小企業団体中央会

株式会社 ゆっしーちゃん	24
湯ノ浦地区の活性化に貢献するための「温泉しいたけ」ブランド化支援	
公益財団法人えひめ産業振興財団 愛媛6次産業化サポートセンター	

IT活用

石村箔押店	26
「家族経営の紙製品オリジナルブランド」知名度向上と商品展開	

東予信用金庫

知的資産経営

株式会社 ヴァンサンカン	28
人事評価制度の見直しによる従業員の職場における生きがいづくり	

愛媛信用金庫

産学官連携

創作日本料理 吉左右（きっそう）	30
飲食店のコラボ商品開発と「高校での総合的な学習の時間」における学習活動の支援	

保内町商工会

販路開拓

スイーツ工房 絹	32
地方からの発信	

西予市商工会

事業再構築

鉄板かめお	34
店舗移転支援とコロナ禍における飲食業の補助金活用支援	

愛南町商工会

株式会社 ポピー	36
田舎花屋から新ニーズに沿った“ボタニカルカフェ”への事業展開	

吉田三間商工会

「チームえびす」支援拠点名簿	38
----------------	----

伴走型支援を活用したリキュールの販路開拓

支援機関 松山商工会議所 支援内容 新商品開発・販路開拓 支援区分 経営革新

株式会社 ウテナ銘酒

事業者概要

社名／株式会社 ウテナ銘酒
 代表者名／代表取締役 松岡 健太
 業種／酒類製造・販売業
 所在地／愛媛県松山市森松町519番地1
 資本金／2,000,000円
 設立／令和元年8月
 従業員数／3名



ウテナチェッコロシリーズ

支援に至る経緯

【会社概要】

代表の松岡健太氏は天文学者から酒類製造業に転身した異色の経営者である。愛媛大学在学時に天文学と出会って以降、天文学者の道を歩んできた。宇宙の歴史138億年の謎を解き明かすため、超巨大ブラックホールの研究に取り組み、同大で博士号を習得した。

その後、ソウル大学、京都大学で研究する中で、イタリア・地中海と愛媛・瀬戸内海の気候が似ていることに気づく。気候が似ているにもかかわらず、愛媛でワインの生産が盛んでないことに疑問を抱き、研究者としてイタリア・フィレンツェ大学に赴任した際に、天文学研究を進める傍ら、現地でワインに関する情報を集めた。

このことから、「愛媛でもワイン生産ができる」と確信した松岡氏は平成30年10月、愛媛へ戻り、令和元年に株式会社ウテナ銘酒を設立し、仲間と共にワイン製造に着手した。その一環として、瀬戸内の柑橘を使ったイタリアンリキュール「リモンチェッコロ」を開発し、令和3年6月に発売した。

【支援の経緯】

令和3年6月に発売したリキュール「ウテナチェッコロシリーズ（檸檬・伊予・でこ）」の販路開拓に関して相談があり、松山商工会議所（以下、当会議所という）主催の松山ブランド新製品コンテスト「NEXT ONE」の活用を希望していたこともあり、支援を開始した。

支援内容

コンテストの出品を契機に、商品のコンセプトやPRの内容について支援を開始した。コンテストの内容をもとに、あらためて商品の強みやアピールポイントを整理、ブラッシュアップし、販路開拓のもとになるブランディングを支援した。このことにより、コンテストでは「金賞 松山商工会議所会頭賞」を受賞した。

続いて、実際の販路を開拓するため、当会議所主催の「会員間ハイブリッド商談会」への出展を支援するほか、愛媛県・香川県のアンテナショップ「香川・愛媛せとうち旬彩館」（東京・新橋）で開催した当会議所の催事での出品をサポートした。こうした中で、域内外の消費者の声をとりまとめ、販促活動に活かす流れをつくった。

支援の効果

「会員間ハイブリッド商談会」「松山圏域中小企業販路開拓市2022」に出展したことで、効果的な展示方法やバイヤーがどのような情報を求めているかの知見が深まり、売上の向上につながった。また東京での催事では、首都圏の消費者に直接PRできたほか、同業他社の販売動向などの分析も行き、新たな商品開発が促された。

今後の展開

ウテナチェッロシリーズのさらなる販路開拓のため、首都圏の消費者を対象としたネット調査を行い、新たな販路を模索する。あわせて、効果的なプロモーションができるように、販促ツールなどのブラッシュアップを支援する。また、展示会に出展するなかで、新商品開発に関するヒントも得られたことから、専門家などを活用し、新たな市場を獲得できるような商品づくりを支援する。

念願の愛媛産ワインは令和6年の発売を目指し、現在は松山市内の農地で原料のブドウを育てている段階である。将来的には松山市内にワイン醸造所を構え、その場でワインを飲みながら参加できる天体イベントを開く構想もあり、こうした中期的な構想の計画の具体化などに関して支援していきたい。

事業者の声

松山商工会議所の支援のおかげで人脈が広がり、経営以外のことも含めた一つの相談窓口ができたことで大変助かっております。支援を受けるなかで、当社を応援してくれる人の数が増えていることを日々実感しており、販路開拓への手ごたえを感じています。



代表取締役 松岡 健太

支援者の声

松岡さんの「松山をワインの産地にしたい」という熱い思いに感銘を受け、少しでも力になれるよう日々支援に取り組んでいます。愛媛の魅力が詰まった株式会社ウテナ銘酒のお酒を、より多くの人に知っていただけるよう、今後も伴走型で支援に取り組んでいきたいと思っております。



経営指導員 山本 一樹

愛媛県産柑橘による魔法のクラフトコーラで 新たな事業展開

支援機関 公益財団法人えひめ産業振興財団 ビジネスサポートオフィス

支援内容 新商品開発・販売 支援区分 経営革新

15 ichigo (いちご)

事業者 概要

社名／15 ichigo (いちご)
代表者名／代表 野中 玲麻
業種／飲食業
所在地／松山市
設立／令和2年8月



店舗及びキッチンカー



支援に至る経緯

松山商工会議所のサテライトとして個別相談を対応した。愛媛の柑橘を使用したオリジナルクラフトコーラの商品化～移動販売を実現していきたいが、自身で計画書作りをした小規模事業者持続化補助金は残念ながら不採択になってしまった。そこで、再度補助金にチャレンジをしていきたいので、申請にあたり経営計画書の作成等のアドバイスが欲しいとの相談があった。

支援内容

愛媛県の「新型コロナウイルス感染症対応新ビジネスモデル展開促進事業（コロナ対応新ビジネスモデル補助金）」2回目に向けた経営計画作りとして、企業概要～市場（顧客ニーズ）・競合、自社の強みの3C分析～コロナ禍の影響～取組内容～今後の方針・事業スケジュール・経営上の効果の取り纏めを下記の通り、アドバイスを実施した。

★企業概要

メニュー別売上高・利益率（表とコメントを入れる）

★市場（顧客ニーズ）・競合、自社の強み

巣ごもり需要・外食控え・家食&飲みでの市場動向の把握、商圈となる松山市人口統計（地域別・年齢別）の情報収集、コロナ禍で親子のコミュニケーション不足・各地でクラフトコーラがブーム・成城石井も取扱いの顧客ニーズを整理、母親目線でオリジナルメニュー・3か月連続テレビ取材を強みとして事業の方向性を決定。

★コロナ禍の影響（月別売上高の比較表とコメント）

★取組内容をマーケティング4P（商品・価格・流通経路・プロモーション）で整理

オリジナルクラフトコーラの特徴・販売価格、キッチンカーで販売、周知集客方法（SNSフォロワー600人超）

★今後の方針・事業スケジュール・効果（定量的）

その後、今後の事業展開における公益財団法人えひめ産業振興財団の「令和3年度愛媛グローバルビジネス創出支援事業費補助金」及び「愛媛グローバルビジネス加速化支援事業費補助金」活用を見据えて、愛媛県の「愛媛グローバル・フロンティア・プログラム EGF アワード 2021-2022」応募に向けた計画書となる創業動機～地域課題×地域資源活用～誰に・何を・どこで・どのように～独自性・セールスポイント・競合～主な課題と解決策～実施計画～売上目標の計画書への反映アドバイスを行った。

古民家を活用した民泊・カフェ事業

支援機関 公益財団法人えひめ産業振興財団 ビジネスサポートオフィス

支援内容 グローカルビジネス創出補助金を活用し、古民家でのカフェ事業を支援 **支援区分** 経営革新

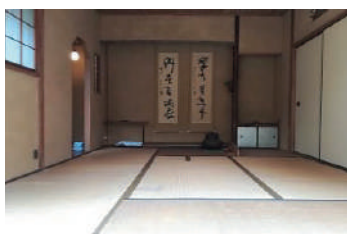
旧鈴木邸

事業者概要

社名／旧鈴木邸
 代表者名／岡崎 麻祐子
 業種／観光・宿泊・飲食
 所在地／松山市三津1丁目3-13
 設立／令和2年3月



店舗外観



2階を民泊・座敷貸しに活用



庭園に面した茶室もある

支援に至る経緯

連携支援先である松山商工会議所より女性創業サロンへ紹介を受けた。「旧鈴木邸」は民泊・座敷貸しのビジネスとして開業したが、コロナ禍の影響もあり、売上を上げていくところまで至ってなく今後の事業展開に向けてアドバイスを求められた。

支援内容

元々「旧鈴木邸」は米問屋であったことから、ストーリーを引き継いで、例えば釜戸で炊いたおむすびと味噌汁（地元米・味噌の使用）やお餅を売りにした飲食又は総菜を組み合わせることを検討した。売り上げとして宿泊だけに左右されるのではなく、飲食の外売り（テイクアウト）も可能となる。

公益財団法人えひめ産業振興財団の「令和3年度愛媛グローバルビジネス創出支援事業費補助金」（地域課題×地域資源活用のビジネス）へ申請し、民泊設備に加え、設備整備のための改修、厨房機器の設備を行いカフェの許認可を目指した。申請に伴い、事業計画の策定や売上計画の作成支援を行った。

カフェ開設に向け取り扱いメニューは、古民家で食べることが出来るシンプルなものが良いのではないかと考え、おはぎ+お茶、コーヒー、甘酒、生姜湯、抹茶+和菓子（坊ちゃん団子や松山銘菓）、おにぎり+味噌汁+漬物などを検討した。

集客・宣伝方法としては、カフェを周知するためのHPの改変が必要。地元メディアなどに対応し、協力をお願いしていく。

支援の効果

公益財団法人えひめ産業振興財団の「令和3年度愛媛グローバルビジネス創出支援事業費補助金」の採択を受け、円滑に設備投資が図られた。厨房機器の導入、床の張替え等を行い、保健所からの営業許可が下りた。

早速、検討していたカフェ事業を進め、メニュー開発を行った。デモンストレーションとして、令和3年12月にはカフェをプレオープンした。

メニューは、おはぎとお茶（新宮茶）またはコーヒーの組み合わせとした。アンケートを作成し、顧客ニーズを収集。また、公式LINEに登録すると割引等の施策を用意し、今後のイベント訴求、集客にもつなげる。



アンケート



カフェ看板



おはぎとお茶



おはぎとコーヒー

今後の展開

本物の歴史に触れられる空間を、街歩きの途中で気軽に一服できる場所として提供。和の雰囲気や懐かしさ、素材の味を楽しめるメニューとして「おはぎ」の商品開発を行い、三津浜の手土産としての定着を目指す。

- ・民泊利用者の食事だけでなく将来的には定食、いなり、巻きずしなどのごはんメニューも用意し提供する。旅行者と地元のお客様との交流が生まれることも期待できる。
- ・観光案内の街歩きMAPなども設置。三津浜の魅力を発信できる中心地となる。

事業者の声

「旧鈴木邸」を街歩きの途中でも気軽に立ち寄り、本物の伝統建築や、三津浜の歴史文化に触れる場所として、カフェを開業し、三津浜の古民家の魅力を三津浜内外の多くの人に知ってもらうことで、三津浜の古民家を守り、歴史的景観を未来に残すことに貢献したいです。



岡崎 麻祐子

支援者の声

三津浜の歴史文化を伝えたい岡崎氏の想いにより、解体予定だった旧鈴木邸が修復され、国登録有形文化財に認められるまでとなりました。

カフェ事業もスタートし、民泊や座敷貸しの顧客以外にも庭園や建築に触れることが出来るようになり、岡崎氏の想いが広く届けられるのではと期待しています。

サブマネージャー
渡部 一恵

ベーカリーカフェ新規開業事業

支援機関 中島商工会 支援内容 創業に係る全般 支援区分 創業

しまのぱんかふえ tetote

事業者概要

社名/しまのぱんかふえ tetote
代表者名/山田 健生
業種/パン製造、飲食店
所在地/松山市熊田甲696番地
設立/令和3年6月
従業員数/1名



古民家を改装した海が一望できる店舗

支援に至る経緯

経営者は平成30年に大阪から松山市中島へ夫婦で移住され、地域おこし協力隊員に就任し地域の魅力発信やイベントのサポートなどの活動の傍ら、小麦の栽培、各種のパン作りの研究をするなどして開業の準備を進めていた。前職を退職後、専門学校でパン作りの技術を学んでいたためパン製造についての知識は豊富であった。

地域おこし協力隊を退任する前に中島商工会を訪ねて来られ、色々な話を聞かせて頂いた。前職ではレストランの限定メニュー開発や食料品スーパーと連携した地場野菜（朝市）など食を通じてお客様に喜んで頂くことの経験や接客を中心としたマネジメント、宣伝、顧客づくり等のキャリアを積んでおられる事が分かった。それらのノウハウを活かし「おいしいものを提供してたくさんの人を幸せにしたい」と熱く語られ、起業全般について相談に乗ってほしいとの依頼を受け支援する事となった。

支援内容

1. 経営者と共に島内の店舗候補地を巡回（物件探し）
2. コンセプト及び創業計画書作成支援
取引先（仕入先、販売先）、取扱商品及びサービスに係る情報提供、事業の見通しについての支援、アドバイスを行った。
3. 資金繰り相談
4. 商品開発（試食に伴うアドバイス）
5. 食品営業許可申請、開業届等の各種書類作成支援
6. 店舗外装内装等についてのアドバイス
7. 国、県、市のコロナ関連施策及び小規模事業者持続化補助事業等の支援
8. 販売管理支援
9. 経理、税務関連支援
10. 資金繰り相談

支援の効果

超過疎地域であるこの地においても新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、特に地域内の高齢者は島外へ出ることを控える傾向にある。県外はもとより松山市街への外出が困難であること、また地域外にいる子供、孫、親戚縁者が島を訪れない状況下にあること等、日々の生活の潤いも失われつつあった。そういった中、焼きたて手作りパン屋さん「しまのぱんかふゑ tetote」が無事開業できたことを島内住民は大変喜んでいる。

高齢の方々や島に数少ない子供達が店内奥のイートインカフェで、出来立てのパンやコーヒー、スイーツを食べながら談笑する姿を目のあたりにした時、開業支援をさせてもらって良かったと実感した。

今後の展開

新型コロナウイルスの状況に配慮しながら今後の持続的な営業ため、下記について積極的な事業展開を図る。

- ・地元食材を活用し新たな菓子パン、惣菜パン、食パン、焼き菓子、スイーツの開発。
- ・来店困難な高齢者に対し、最寄りの集落への移動販売また予約に基づく宅配を行う。
- ・松山市本土からの通勤通学客をターゲットとし港付近で出張販売を行う。
- ・固定客確保のため、島内の施設（市役所支所、農協、宿泊施設、老人ホーム、デイサービス等）への販売を強化する。
- ・加工品を含めた新たな地元産品開発に取り組むことで島外の顧客へ向けた販売活動またホームページ、SNS等により情報発信をしていく。

事業者の声

起業することの大変さを痛感しました。想定外に諸問題が生じたものの何とか開業することができました。今回、中島商工会をはじめ島内外の多くの方々にご支援、ご協力頂き非常に感謝しています。先行き不透明なコロナ禍ではありますが、モチベーションを下げずに今後も頑張っていきたいです。



代表者 山田 健生

支援者の声

当初の予定より少し遅れて令和3年6月、開業するに至りました。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、開業するタイミングは非常に難しい判断だったと思います。今回開業に携われたことは非常に光栄ですし、勇気を持ち英断された山田さんに敬意を表したいです。今後は販路開拓、情報発信の方面においても積極的に支援していきたいです。



中島商工会
経営指導員 渡部 誠二

ゲストハウス立ち上げに伴うコンサルティング

支援機関 株式会社伊予銀行 支援内容 創業支援 支援区分 創業

上田 沙耶

事業者概要

代表者名／上田 沙耶
業 種／宿泊業・飲食業
所 在 地／愛媛県伊予市双海町
設 立／令和3年7月
従業員数／1名



店舗風景

支援に至る経緯

当人は、令和2年4月に「伊予市地域おこし協力隊」就任に伴い来県。協力隊としての活動の傍ら、令和3年の夏に、伊予市双海町にある祖父母宅で、カフェ「ポパイ」をオープンした。土日のみの営業であるが、名物の「中華そば」は大好評であり、順調に飲食事業を進めていた。

一方、協力隊就任前から、「双海町は観光資源が豊富な反面、宿泊施設が乏しく、観光客の受入態勢が不十分である」と感じていたため、ゲストハウス開業を企画。伊予銀行（以下、当行という）の「第7回いよぎんビジネスプランコンテスト」で、祖父母宅をゲストハウスに改修する事業プランを発表した結果、「過疎化」という地域課題を解決する取組みであることが評価され、「シード部門賞」を受賞した。

同コンテストで発表したプランを実現すべく、当行にて、資金計画の作成サポートや特定創業支援事業の認定、創業者向け融資制度を案内した。

支援内容

1. 新事業創出支援資金（愛媛県信用保証協会付融資制度）申請に伴う資金計画書等の作成支援

ゲストハウス事業開始に伴い、祖父母宅を一部改修するために資金調達が必要となった。そのため、単価設定・集客予想、想定費用等を協議し、10年間の資金計画書等、資金調達時に必要な資料の作成サポートを行った。

2. クラウドファンディングの紹介

ゲストハウス事業を開始するにあたり、県内外の方に広く周知するため、「資金調達」としてではなく、「事業PR」としてクラウドファンディングの活用を案内した。

支援の効果

資金計画書の作成を通じて、今後の事業展開に関する方向性が決まり、計画的に事業を進める土台が作れた。また、計画を作成することで、「今何をすべきか」「今後何をしていくべきか」が鮮明になり、計画的な事業の立ち上げを行うことができた。

また、クラウドファンディングでは全国から200名以上の応援を得るなど、「ファン作り」に成功した。



店舗内観



店舗外観

今後の展開

令和4年2月に改修工事や許認可関係が完了し、本格的にゲストハウス事業を開始する予定である。アフターコロナを見据え、伊予市外からの観光客だけでなく、サイクリストや外国人観光客の受入れを行っていく。

また、飲食業や宿泊業だけでなく、双海町の周遊ツアーを企画・販売することで、双海町全体の地域活性化に貢献していく。

当行も、資金支援だけでなく、グループ一体となったコンサルティング機能を発揮して、事業展開に応じた、様々な支援・サポートを実施していく。

事業者の声

「資金計画書作成」のサポートでは、単価設定や想定費用を話し合うことで、より具体的に、将来のビジョンを描くことができました。また、「お金」の相談だけでなく、事業の進め方（PR方法・他ゲストハウスの状況）を教えていただくことで、大変心強いコンサルティング内容だったと思います。今後も、事業展開に合わせたサポートをお願い致します。



上田 沙耶

支援者の声

上田さんは、「観光資源が豊富な反面、人口減少が続く双海町を活性化したい」という想いが強く、今後も地域活性化に大きく貢献する事業者です。

当行グループ一体となり、様々な観点から全面的なサポートを実施していきますので、引き続き宜しくお願い致します。

伊予銀行地域創生部
高村 尚吾

えひめアグリノベーション起業塾および 一次産業応援ファンド活用による創業支援

支援機関 株式会社愛媛銀行 支援内容 起業支援を通じて愛媛県内の一次産業の活性化につなげるため 支援区分 創業

えひめアグリノベーション起業塾

事業者 概要

事業の名称／えひめアグリノベーション起業塾
主 催／株式会社愛媛銀行
入塾対象者／定員 15名
今後1年以内に農業等、一次産業分野で起業を
目指す人
5年以内に農業等、一次産業分野で起業した人
参加費／20,000円
場 所／愛媛銀行 研修所
開催時期／令和3年6月～令和3年8月（計4回）



第1回開催：令和3年6月26日
愛媛銀行研修所にて

コンセプト

起業支援を通じて愛媛県内の一次産業の活性化につなげることを目的に、起業家や起業予定者を対象とした「えひめアグリノベーション起業塾」を開講した。当塾では『3か月で事業計画を作成・起業準備』をテーマとして、参加する各塾生が事業計画を提案し、講師や他の塾生と共にブラッシュアップしていく実践的なカリキュラムにより事業計画作成の課題を解決する。

事業の目的

- ・ 起業支援を通じて愛媛県内の一次産業の活性化につなげること。
- ・ 県内の一次産業を盛り上げるため、採算性の高い事業者を生み出すこと。
- ・ 学ぶだけでなく、実践する起業家を生み出すこと。

【講座内容「実践する人しか残れない講座」】

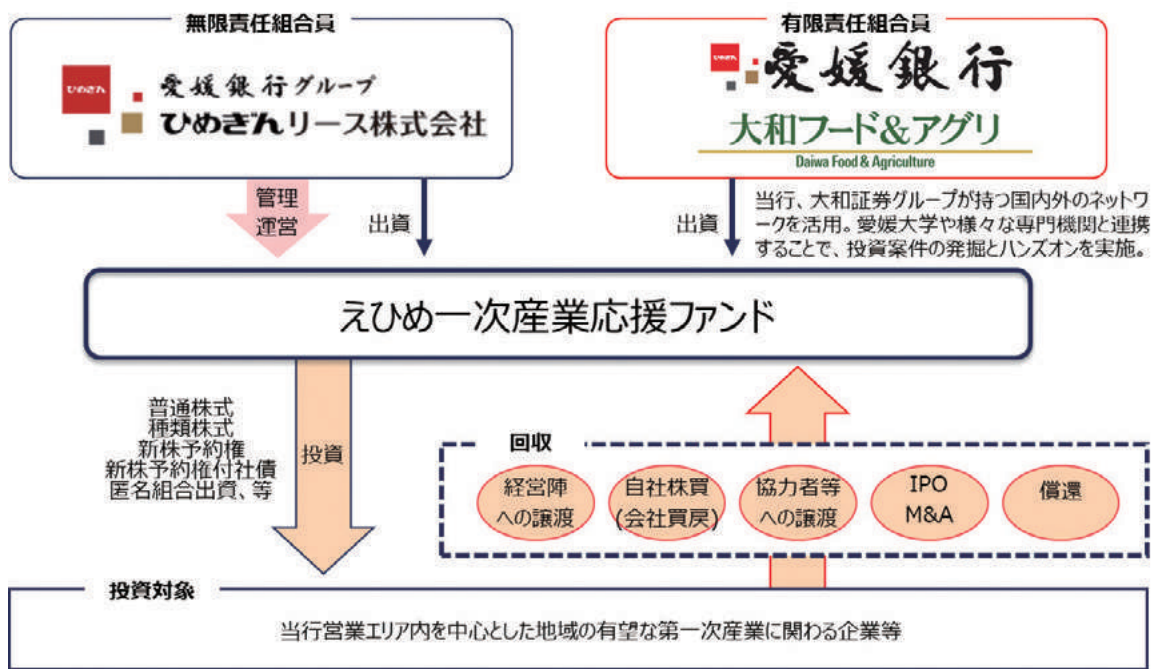
回号	テーマ	内容	講師・講演／講義名
第1回	企業理念・事業コンセプト	・ オリエンテーション ・ 塾生ビジネスプランの発表 ・ 企業理念・コンセプト講義	株式会社OCファーム暖々の里 代表取締役 長野 隆介 氏 「企業理念とコンセプト」
第2回	マーケティング基礎	・ 事業計画の策定 ・ マーケティング基礎	めしや 永野 浩 氏 「マーケティング基礎」 株式会社ゆうぱく 代表取締役 岡崎 晋也 氏 「6次化について」
第3回	数値計画	・ 会計の基本と活用 ・ 数値計画策定	税理士 重松 修 氏 「会計の基本と事例紹介」 中央会計株式会社 稲見 益輔 氏 「数値計画の作り方」
第4回	資金調達	・ 資金調達方法	日本政策金融公庫 農林水産事業融資第一課 課長代理 白神 貴明 氏 ひめぎんリース株式会社 ファンド業務担当部長 武田 晋典 氏

支援の効果

当塾に19名が入塾。うち塾生2名から会社設立・資金調達の相談があり、早速、当塾の経験を基に事業計画書を作成いただいた後、愛媛銀行（以下、当行という）と意見交換を行った。

なお、当行からは、当該塾生に対し、当行、当行子会社ひめぎんリース株式会社及び株式会社大和証券グループ本社子会社の大和フード&アグリ株式会社が出資する「えひめ一次産業応援ファンド」を案内し、投資実行に至った。

【えひめ一次産業応援ファンド】



事業者の声

起業塾に参加し、事業計画の策定方法や資金調達方法等について深く知ることができ、大変良かったです。参加後には実際に起業し、ファンドによる支援も受けることができました。

有機農業を世の中に一層広げるために、塾で学んだことを生かしながら、事業拡大を進めていきたいと考えています。



どんぐりファーム株式会社
代表取締役 中岡 昌和

支援者の声

一次産業は担い手の減少・高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増加等、多くの課題を抱えております。

当行は一次産業事業者、また一次産業で起業を考えている方に対し、創業のアドバイスから資金調達まで幅広い支援を行い、地域活性化に貢献いたします。



ソリューション営業部
経営サポート室

学生の「研究」が「生業」に ～創業支援と売上拡大～

支援機関 公益財団法人えひめ産業振興財団 愛媛県よろず支援拠点 支援内容 創業と売上拡大 支援区分 創業

センザノム

事業者
概要

社名/センザノム
代表者名/代表 大谷 空歩
業種/飲食業
所在地/愛媛県西宇和郡伊方町釜木1014
設立/令和元年
従業員数/1名



キッチンカーでの営業
右が大谷氏

支援に至る経緯

相談者は愛媛県出身で岡山商科大学に在籍しており、研究課題として「地域資源を使ったビジネス」をテーマとして検討していた。まずは、地域を選定する作業から始め、観光者の移動経路、特産品の量と質、観光資源の状態などから、四国最西端の地にある伊方町三崎地区を選定するに至った。ところが、具体的な進め方や交渉窓口が分からず、担当講師に相談したところ、講師がコーディネーターとして所属する愛媛県よろず支援拠点（以下、当拠点という）を知り、そのまま相談に至った。

この取り組みがスタートしたのは約3年前。当時はYouTubeの利用者が急増していたこともあり、YouTubeで地域の魅力を伝えるコンテンツを配信するビジネスを考えていたが、コンテンツ配信のみの広告収益だけでは事業継続が難しいと判断。観光地で飲食店を出店して最低限の売上を確保しつつ、情報配信による広告収益の可能性を見極めることにした。

支援内容

相談者はデジタルネイティブ世代に該当することもあり、基本的なITリテラシーを有していたこと、また、他県に在住しているメンバーとの連携も必要だったことから、初年度からメンバー間の情報共有の手段として各種クラウドサービスを積極的に活用することを提案し、導入支援をしていた。

その結果、レジには前年の売上データが残っており、人気商品や時間帯別の販売分析が可能な状態となっていたほか、オンラインストレージにはレシピや店舗のオペレーションマニュアルなどが残り、業務の脱属人化、ワークフローやレシピのブラッシュアップなどが図りやすい環境が出来上がっていた。

これを基にIT系の学科、観光系の学科、会計系の学科から創業に関心がある仲間を募り、それぞれが得たい課題を明確にして当事業に合流した。メンバーは春頃から前年の結果を基に本年の戦略を練ったり、オペレーションの確認を行ったりして、当年は7月下旬から海水浴場で営業を再開した。営業期間は約2ヶ月間だったが、期間中に何度か現地に足を運び、運営状況の把握と改善のアドバイスなどを行った。

支援の効果

前年に開発したおにぎりやメニューに加え、地域の特産品を生かした新メニューを追加したほか、自販機の位置や昨年の売上傾向から飲み物やアイスが売れると判断し、これらの物販にも注力して売上拡大を目指した。

また、海水浴場と佐田岬灯台付近で2店舗運用にもチャレンジしたが、後半は新型コロナウイルス感染症の感染状況から閉店を余儀なくされた。それでも1日あたりの平均売上は昨年比で約15%アップし、当初の目標通り最低限の売上は確保することができた。

ただ、本来検証したかった、集客イベントの開催、YouTubeやSNSを活用したマーケティング活動などが新型コロナウイルス感染症対策の一環として制限を受ける形となり、本来の目標・目的を果たせなかった点が心残りである。

それでも、この複数年にわたる取り組みで可能性を感じた相談者は、当地域に移住して事業を継続する決断をした。危機的な過疎が進む当地域において、事業者として移住に至った点も公的支援機関としては大きな成果と考える。

今後の展開

卒業を目前に控えた現在、地域の有志や行政の力を借りながら住宅も店舗も準備を整え、いよいよ新年度からは「研究課題」ではなく「生業」として取り組むことになった。ここまでの取り組みで、経営者に求められるスキルである企画力、提案力、行動力は確実に向上しており、実際に空き店舗や雇用する人材の確保なども、地域の有志や行政と上手く連携して短期間でまとめることができた。

小さいビジネスではあるものの、恵まれた観光資源とITを組み合わせた商品開発、販路開拓、コンテンツ配信にも積極的にチャレンジしていく計画となっていることから、幅広い収益構造を構築できるものと考えている。また、他の参加メンバーもそれぞれの学科の視点から知見を得て、創業を具体的な目標として考えるきっかけとなった。実際に創業にチャレンジする学生もいることから、その展開も追って行きたい。

事業者の声

IT系の学科に属していたので、諸々のクラウドサービスの活用については使いこなせる自信があったのですが、各サービスを横断する連携については、コーディネーターに何度も助けてもらいました。また、地域との連携、商品開発、各種申請の面においても学ぶべき点がたくさんありました。移住した今後も支援をお願いしたいと考えています。



代表 大谷 空歩

支援者の声

今回は、プレスト的な意見交換を繰り返しながら事業を形にしていく支援が中心でしたが、その過程では若者ならではの柔軟な発想や、冷めることのない情熱に脱帽する局面も多くありました。今後も斬新な企画が実現できるよう、支援させていただきます。引き続き、ご相談ください。



コーディネーター
竹内 尚志

マジシャンが、子どもたちに届ける劇団 「おとぎと魔法の劇場」を立ち上げ

支援機関 公益財団法人えひめ東予産業創造センター

支援内容 コロナ禍に対応した新ビジネスモデルの展開

支援区分 新商品開発

黒川 遼

事業者
概要

代表者名／黒川 遼

業 種／娯楽業（マジック、劇団）

所 在 地／新居浜市

設 立／令和元年



公演風景

支援に至る経緯

マジシャンの黒川氏は「マジックのパフォーマンスには、社会課題を解決するチカラがある」と、プラスチックごみ対策や食育をテーマにしたショーも実施する。令和元年までは首都圏の大企業に勤務され、社会課題を解決する事業企画で社内コンテストの賞を獲得したこともあり、Uターン・創業後のコロナ禍以前は、関西・中国・四国のホテルや商業施設などで年間150件程のマジックショーを行っていた。

そんな黒川氏がコロナ禍で目の当たりにしたのが、小学校の「芸術鑑賞会」を巡業していた劇団の倒産であった。小学校の芸術鑑賞会での開催ジャンルは「演劇」が最も多い中、四国には、訪問して公演する劇団が存在せず、四国外の大都市圏から来ていた劇団がコロナ禍で巡業できず倒産し始めている。このままだと、四国の子どもたちが芸術文化に触れる機会が少なくなってくる。

黒川氏の仕事も激減する中、四国在住の3人だけで訪問して公演できる、マジックを取り入れた舞台芸術劇団の立ち上げを決心した。元マジシャンの脚本・演出家や、NHK「おかあさんといっしょ」等に出演するパフォーマーを含めた実施体制を整え、2021年4月、中小企業庁の「事業再構築補助金」に応募したいと、えひめ東予産業創造センターへ連絡があった。

支援内容

応募に必要な事業計画の作成を支援した。特に、事業が「ホテル等からの受注」から「特定市場向け独自サービスの制作・提供」へと変わるため、ビジネスモデル全体の整理とともに、市場状況を明確にすべく、既存データの整理（文化庁による小学校「芸術鑑賞会」実施状況調査資料等）、地元新居浜市の教育委員会へのヒアリング（参入のための価格設定、年間スケジュール等）、関係機関への同行訪問を行った。



支援の効果

当初の事業計画書では審査項目をすべて網羅できていなかった。審査項目を当事業に置き換えて解釈し、詳細な事業計画書の作成を迅速に支援し、その結果、応募枠の中では愛媛県で一番初めに提出、採択された。

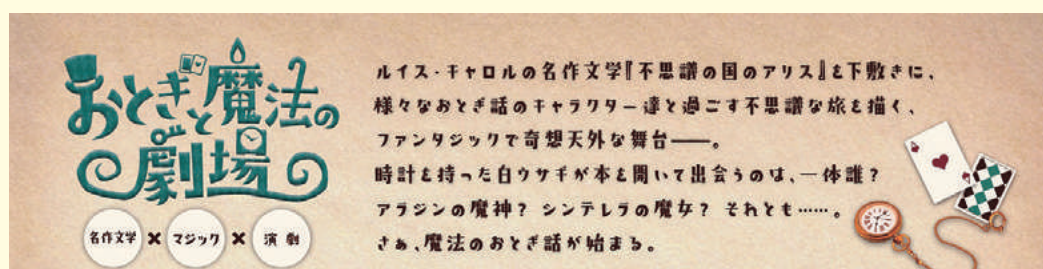
関係機関への同行訪問の結果、新居浜市の事業として行われている小学校芸術鑑賞会のコンペに令和4年度から当事業が参加できるようになった。

令和3年10月から開始した事業であるが、令和3年度の事業売上の半分が当事業の売り上げとなった。令和4年度のリピート公演、新規公演もすでに5件確定しており、今までとは違う収入源を得られるようになった。

今後の展開

来年度は新作制作・内容改善をしながら、四国内だけでなく、岡山・広島の小学校への芸術鑑賞会の提案、代理店への販売委託、教育に関係する施設への提案を行い、販売経路の拡大を行っていく。

将来的にはこれを一つのパッケージにして地方で燦るパフォーマーと協業し、地方でも質の高い芸術が提供できる環境づくりをしていきたい。



事業者の声

やりたい事業案は持っていましたが、それを言語化できていなくて、様々な申請書類に悪戦苦闘していました。川井さん、矢葺さんに丁寧に事業案をヒアリング、言語化していただき、事業を簡潔に伝えることが出来るようになりました。また、私の感じていた地域課題にも共感していただき、まさに一緒に事業を立ち上げて頂いたと感謝しております。



黒川 遼

支援者の声

「マジシャンが来られる」、「マジシャンって、手品の？」。

そんなセンターに来られた黒川さんは大企業勤務時代に企画営業の成績優秀者として何度も表彰されたというだけあって、明るく、前向きで、一緒にいて元気をもらってしまう方です。これからもコロナ禍の波などあると思いますが、マジックで社会課題に関わろうとする黒川さんの活動を引き続き応援しています。

コーディネータ
川井 保宏事務局部長
矢葺 広和

補助金活用によるECサイト・販売スペースの設置と新商品開発

支援機関 砥部町商工会

支援内容 持続化補助金・コロナ対応新ビジネスモデル補助金・日本政策金融公庫の融資の斡旋 支援区分 新商品開発

atelier LUXE (アトリエリュクス)

事業者概要

社名 / atelier LUXE (アトリエリュクス)
代表者名 / 事業主 郷田 裕佳子
業種 / 製陶業
所在地 / 伊予郡砥部町
設立 / 平成15年4月1日



販売商品

支援に至る経緯

事業主は令和2年4月に砥部町商工会へ加入した。簡易トイレの設置をしたいが何か活用できそうな施策はないか相談に来られた。また、新型コロナウイルス感染症の影響で砥部町の一大イベントである「春の砥部焼まつり」の中止が決定しており、売上確保についても悩んでいた。

※砥部焼まつりに関しては、令和2年以降、春・秋ともに中止が続いている。

支援内容

(1) 小規模事業者持続化補助金活用による販路拡大支援

当初の「顧客サービスをアップするため、簡易トイレの設置をしたい」との相談に対し、中小企業庁の「令和2年度第3次補正予算 小規模事業者持続化補助金 <低感染リスク型ビジネス枠>」を説明。詳細を聞き取った結果、販路開拓の手段として「店舗の改装（展示室の設置）」と「ECサイトの開設」も併せて行うことを提案し、補助金を申請する運びとなった。中小企業庁の「令和2年度第3次補正予算 小規模事業者持続化補助金 <低感染リスク型ビジネス枠>」の第3回に申請し、不採択。申請書のブラッシュアップを行い、第5回で採択された。事業再開枠も活用し、新型コロナウイルス感染症対策として換気扇や空気清浄機能付きエアコンの導入も併せて行った。

(2) コロナ禍における資金繰り支援

中小企業庁の「令和2年度第3次補正予算 小規模事業者持続化補助金 <低感染リスク型ビジネス枠>」の活用と同時に運転資金の確保として、日本政策金融公庫のコロナ貸付を活用した。

(3) コロナ対応新ビジネスモデル補助金活用による新商品開発

新商品としてガラスと砥部焼きを組み合わせたアクセサリーの販売を計画。愛媛県の「新型コロナウイルス感染症対応新ビジネスモデル展開促進事業（コロナ対応新ビジネスモデル補助金）」を申請し、小型窯の導入とパッケージデザイン製作を行った。

支援の効果

展示室の改修及び簡易トイレの設置のおかげで、展示の方法による顧客へのアプローチやサービスの向上となり、これから先何度でも訪れたい店舗になった。コロナ禍で旅行客やイベントの中止に伴う売上激減に対し顧客の来店を促進する効果があった。オープン記念として開催したイベントも、Instagram等で宣伝したところ好評だった。

新たにECサイトを開設したことで、県内外の顧客への販路が開拓できた。また、卸売よりも直接取引の方が利益率が良いため、利益の向上・経営力強化に繋がったと考えている。さらに、すでにリピート購入の顧客もあり、今後を期待している。

ガラスと砥部焼を組み合わせた商品は他店にはないため、競合他社との差別化が実現した。



施工前



施工後



パッケージデザイン

今後の展開

今後は新商品である砥部焼とガラスのアクセサリを主力製品とするべく動いていきたい。アクセサリは器と比較して梱包がしやすく送料も安いいため、ECサイトによる販売も広げていきたい。

事業者の声

展示室を改装し、商品と雰囲気が合うようになったおかげで、価格や商品に説得力ができました。コロナ禍で落ち込みがちな時期ではありましたが、思い切って設備投資して良かったです。

今後は「食」とのコラボをするなど、イベントなども実施していけたらと考えています。



事業主 郷田 裕佳子

支援者の声

オリジナリティのある砥部焼を制作されており、事業主が非常にやる気のある方だったため、支援しやすかったです。



経営指導員 岩井 陽美

女性農業者グループが挑む6次産業化

支援機関 愛媛県中小企業団体中央会 支援内容 商品のブランド化 支援区分 6次産業化

企業組合 高野地フルーツ倶楽部

事業者概要

社名／企業組合 高野地フルーツ倶楽部
代表者名／代表理事 坂本 裕子
業種／食料品製造業
所在地／八幡浜市高野地714番地1
資本金／350,000円
設立／令和2年7月22日
従業員数／14人



天空のマーマレード

支援に至る経緯

八幡浜市高野地地区は、果樹栽培が盛んな中山間地域である。この地区の女性達が平成4年に任意団体「高野地フルーツ倶楽部」（以下、当組合という）を結成し、自分達が生産した豊富な果実等を使用してジャム、みかんのシロップ漬け及びタケノコの瓶詰等を製造販売するほか、各種イベントに積極的に参加してきた。その中、八幡浜市で開催された「第1回ダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会」において、河内晩柑のマーマレードがプロの部で金賞を受賞したことがきっかけで、当組合の存在が話題を呼ぶようになった。

そこで、任意団体を組織化することで百貨店等との契約締結による販路拡大、商品のブランド化、安定した経営体制の構築、更には地域経済の活性化を目的として、法人格を有する企業組合を設立することとなり、設立支援及び経営支援を行った。

支援内容

企業組合を設立し、当地区の女性農業者が生産する果実等を活用した6次産業化に取り組み、新商品開発や販路拡大、商品のブランド化を進めることとした。一方で、高齢化が進む当地では、今後の一次産業を担う若い女性たちの確保及び育成により、女性農業者の所得向上及び能力発揮等、女性が活躍できる場を整備することが急務であり、当地区の持続的な発展を進めるために、組織化支援を行った。

設立後は、営業のノウハウや販路先、認知度不足等が課題として挙げられるほか、加工場等の施設・設備も不十分であった。そこで、6次産業化については、令和2年度、愛媛県の「6次産業化チャレンジ総合支援事業」を活用して新商品開発や販路開拓を実施し、また、令和3年度、愛媛県中小企業団体中央会の「取引力強化推進事業」を活用して、組合や商品のコンセプトを明確にし、統一的なデザインにするなどの総合的なブランディング計画の作成を支援し、新商品6種のパッケージやリーフレット、ロゴデザインを作成した。

販路拡大については、首都圏や関西圏等の新規顧客獲得を図るため、東京都中小企業団体中央会主催の展示会「組合まつり」へのバーチャル出展支援を行った。

また、今後の営業活動の幅を広げるため、PR動画制作やネットショップ開設等の提案・実施を行って営業活動に役立てるとともに、地元パイヤー等との商談の場を提供した。

その他、HACCP対応や適格請求書等保存方式（インボイス制度）の研修会を開催するなど、各種の法改正に対応した体制整備を支援した。

また、女性農業者の活躍する環境の整備では、高野地雇用促進協議会と連携し、女性が働きやすい施設等の確保に取り組み、全国から集まるみかんアルバイトの短期受入施設として、市や関係機関と連携して小学校跡地を宿泊施設とし、女性専用の更衣室、休憩室及び洗濯物干場等を確保するほか、余剰スペースを加工施設としてリノベーションすることで、作業効率が著しく向上させ、衛生面も保たれることになった。



支援の効果

組合設立から事業実施までを総合的に支援することで安定した経営体制の構築が図られた。当初からの課題の販路先については、商品リーフレット、チラシ、ロゴの作成、展示会出展等の効果もあって徐々に認知度が高まり、売上も順調に推移している。これらの作成費用や施設整備は補助金等を活用して負担を最小限に抑え、経営を滞りなく軌道に乗せることができた。



以前より定評のある商品の品質は、八幡浜市で開催の「第3回ダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会」で、金賞2点（レモン・せとか）、銀賞3点（甘平・愛媛果試第28号・ブラッドオレンジ）、銅賞1点（河内晩柑）と商品6種の全てが高い評価を得た。

今後の展開

売上が順調に推移する中、加工の人手が不足している。当初からの目標であった女性が活躍できる環境の整備をより一層強化し、当地区の女性の雇用を創出するとともに、女性農業者の所得を向上させていきたい。それには、品質を保持しながら先進事例を研究し、製造工程等に新たな知識を習得していく考えである。引き続き、当組合と商品の認知度を向上させるとともに、魅力ある高野地地区づくりを行っていききたい。

事業者の声

組合設立の計画づくりからはじまり、商品PRシートの書き方、商談の仕方、HACCP対策、決算指導、インボイス対応等、様々なテーマでの支援や専門家派遣を受けています。

今般進めたブランド化により作成したパッケージやリーフレット、支援を得て作成したPRシート等を活用し、販路開拓に努めますので、今後ともご支援をお願いします。



企業組合高野地フルーツ倶楽部

支援者の声

本業である農業の傍ら、地域活性化のため6次産業化に挑戦する姿勢は見習うべきものがあります。この姿勢により地域の方々はもちろん、各関係機関からの応援を得られる関係を築けたものと思います。商品の販売促進及び魅力ある高野地地区づくりを引き続き支援していきます。



愛媛県中小企業団体中央会
振興部

湯ノ浦地区の活性化に貢献するための 「温泉しいたけ」ブランド化支援

支援機関 公益財団法人えひめ産業振興財団 愛媛6次産業化サポートセンター

支援内容 事業計画策定支援 支援区分 6次産業化

株式会社 ゆっしーちゃん

事業者 概要

社名/株式会社 ゆっしーちゃん
代表者名/代表取締役 寺内 喜志郎
業種/観光農園・林業
所在地/愛媛県今治市湯ノ浦26
資本金/870,000円
設立/平成24年



新設されたしいたけ栽培用ハウス

支援に至る経緯

今治市湯ノ浦において「温泉しいたけ」（温泉水を活用し育てたしいたけ）栽培に取り組む寺内氏が、自身が経営する温泉施設を活用した地域活性化を図るため「温泉しいたけ」のブランド化を目指し、収穫祭やしいたけオーナー制度等の事業に取り組んできた。

今後、これらの取り組みを更に進めて行くには従業員の雇用が必須ではあるが、そこまでの利益が得られていない現実があった。そこで、売上向上を図り、従業員を雇用することで事業を継続し、「温泉しいたけ」による地域活性化を実現するため、先を見据えた事業計画を考え、具体的な取り組みについて整理するための支援を愛媛6次産業化サポートセンターで行うこととなった。

また、事業計画を策定することで、寺内氏が経営する事業全体への相乗効果を図ることも併せて検討することとなった。

支援内容

1. 事業の現状確認
2. 5年後の目標（あるべき姿）を確認 「社員1名雇用・売上高400万円」を目指す
3. SWOT分析で現状の詳細を把握
4. あるべき姿の目標設定
売上高：200万円アップ 栽培面積：現状維持（生産効率アップ&単価を上げる）
人材：しまなみ興産で正社員を1名雇用
5. クロスSWOT分析で4つのCSFを抽出
 - ①しいたけ農家としてのやるべきPRを、楽しさをもってやる！
 - ②県外からの観光目的のお客様から、県内の（地元）家族や女子会客への変更
 - ③自社にとっての人材育成について方針を決める（ゆっしーランドのキャスト）
 - ④数値に基づく経営の判断
6. CSFと戦略課題の整理
7. ビジネスモデルの構築（バランススコアカードで整理）
8. リスク評価とその対策
9. 新事業ドメイン設定
「温泉しいたけ」を通して、他の温泉地と異なる体験で、新しい価値を楽しんでもらう。
10. 取組の優先順位付け
11. アクションプラン作成

支援の効果

事業計画の作成過程において、これまでボトルネックとなっていたしいたけの収穫量の把握、SNSを活用した情報発信についての実行支援を行った。その結果、事業計画の取り組みへのハードルが下がり、5年後のあるべき姿へ向けて良いスタートを切ることができている。

また、しいたけの収穫量を正確に把握できるようになったことで、受注対応がスムーズに行え、売り上げアップの効果も期待される。

事業計画作成により、今後取り組む行動が明確になったことと併せ、寺内社長ご自身の頭の中がずいぶん整理されたという感想をいただいた。

今後の展開

ハウスの導入で生産が安定し、顧客のニーズに合わせた新しいオーナー制度の構築を計画している。

また、ホームページやSNSで情報発信をすることで、しいたけ狩りのイベントへの集客を図り、更なる売上げ向上を目指していく。

生産に関しては、しいたけ以外のキノコを温泉効果で売り出すなど、新商品の展開も考えている。

さらには、寺内社長が経営されているしまなみ興産との連携を図り、支援過程で新メニューとして提供されるようになった「しいたけピザ」をアピールしたレストラン集客や、改装した個室でのイベント開催、予約利用等を積極的に行うことで、グループ全体の売上げ向上に取り組む。また、寺内社長の思いでもある湯ノ浦地域の活性化へ寄与するべく、観光農園事業も推進していく。



事業者の声

地域資源（温泉水）を使っのしいたけ栽培も約10年近くになり、生産方法はほぼ確立できたと思います。しかしながら、市場ニーズや企業の目指す全体像もつかめず方向性を見失っている状況でした。

今回、愛媛6次産業化サポートセンターとの相談を通し、事業計画まで策定できたことで迷路から脱出し、先の着地点を見出させたような気がします。約2年にわたり大変有意義な時間を過ごすことができ感謝しております。大満足です。



代表取締役 寺内 喜志郎

支援者の声

約2年に渡る支援の中で、店頭にはPOPが増え、さらにはSNSツールも充実し、着実に情報発信体制も整ってこられたと思います。温泉しいたけの魅力をぜひ多くの方に届けていただきたいです。（竹森）

温泉しいたけをブランド化するという社長の強い思いを受け、竹森プランナーとともに支援させていただきました。ハウス導入による安定生産が可能となり、生産量の見える化を図ったことが、今後の展開へと繋がっていきました。今治の名産のひとつとして認知され、しまなみ興産の事業とともに更なる発展を遂げられることを願っております。（玉井）



愛媛6次産業化プランナー
竹森 まりえ



企画推進員
玉井 幸江

「家族経営の紙製品オリジナルブランド」 知名度向上と商品展開

支援機関 東予信用金庫 支援内容 SNSを用いた商品展開、知名度向上、補助金活用による新規設備導入

支援区分 IT活用

石村箔押し店

事業者 概要

社名／石村箔押し店
代表者名／石村浩一、石村菜々美
業種／紙加工業（箔押し）
所在地／愛媛県四国中央市下柏351-1
創業／昭和44年3月



箔押し商品

支援に至る経緯

石村箔押し店は日本一の「紙の町」である旧伊予三島市（現四国中央市）にて昭和44年創業、家族経営の箔（はく）押し専門加工業者。平成24年に現代表（浩一氏）が事業を承継し、紙製品製造・加工業者からのOEM製品（他社の名義やブランド製品を製造すること）を受注している。

箔押しは、熱と圧力によって、金・銀・色箔の文字や絵柄を入れる印刷加工で、別名ホットスタンプとも言い、製品に高級感を持たせることができる。

令和元年10月、箔押しの魅力を広めようと、代表の実子でデザイナーの菜々美氏が箔押し加工を施した紙製品のオリジナルブランド「nanami paper item design」を立ち上げた。

石村氏の従来の事業モデルは、祝儀袋の箔押し等OEM製品受注（BtoB）が100%であったが、コロナ禍で冠婚葬祭が自粛され、売上の柱であった祝儀袋の受注が大幅に減少した。こうしたなか、新たな取組みとして、自社製品を持つこと等により、従来のBtoBに加えBtoCによる販売強化が必要と考えた。菜々美氏の立ち上げた「nanami paper item design」が愛媛新聞等で取上げられるなど話題性を含んでいたことも背景に、オリジナルブランドによる商品展開を検討するに至っている。

東予信用金庫は、「nanami paper item design」を立ち上げた菜々美氏より、オリジナルブランドの知名度向上策、商品展開等に悩んでいるとの相談を受け、愛媛県よろず支援拠点コーディネーター竹内氏と連携し支援を開始した。

支援内容

ホームページの作成・整備（インスタグラム等SNSとの連携、決済システム導入）、ブランディング（商品コンセプトを明確化し富裕層をターゲットとした）、個人向け販売用の小ロット製造機械購入のための補助金申請支援、同設備の購入資金融資。

支援の効果

コーディネーターとの面談を重ねる中で、事業展開するうえでの検討課題が明らかとなった。また、ブランディングを含めたBtoC展開がコロナ禍における新事業として評価され、愛媛県の「新型コロナウイルス感染症対応新ビジネスモデル展開促進事業(コロナ対応新ビジネスモデル補助金)」の採択が得られた。同補助金および東予信用金庫の融資利用によって新規設備を導入した。インスタグラムのフォロワー数増加、ホームページとSNS連携の効果によって集客の向上に繋がってきている。



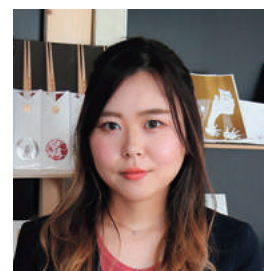
今後の展開

今後は、地元で人気のドッグカフェ等とコラボし、犬をテーマとした紙製品の展開を試験的にスタートさせる。さらにインスタグラムのフォロワー数向上を図り集客に繋げていく。

富裕層をターゲットとした小ロット生産によるブランド展開を継続するとともに、新たな課題については、コーディネーターとの面談を継続することで解決していく。

事業者の声

創業以来、初めてのBtoC展開で全てが手探りでしたが東予信用金庫様、愛媛県よろず支援拠点の竹内様に手厚いサポートを頂いており大変心強くありがたく存じております。コンセプト・ターゲットの設定から始まり、長く使うことを想定した上での決済システムやツールの選定、ページ作成ができました。そして、補助金を利用して新規設備の導入もできました。これからもお力をお借りしながら箔押しの魅力を発信するため邁進してまいります。



石村箔押し店 石村菜々美

支援者の声

前担当者からの引継ぎ案件であり、私自身も涉外系の新人であったのでお客様にご迷惑をおかけするのではないかと心配でしたが、菜々美様と年が近くて話しやすくスムーズに話を進めることができました。

今後についても継続的に訪問し支援していきます。

東予信用金庫
山下 柚穂

人事評価制度の見直しによる従業員の職場における生きがいづくり

支援機関 愛媛信用金庫 支援内容 人材育成 支援区分 知的資産経営

株式会社 ヴァンサンカン

事業者概要

社名/株式会社 ヴァンサンカン
代表者名/代表取締役 石原 美良子
業種/エステティック業
所在地/松山市二番町4丁目2-18
資本金/10,000,000円
設立/平成元年9月18日
従業員数/20名



店舗

支援に至る経緯

【会社概要】

株式会社ヴァンサンカン（以下、「当社」という）は、平成元年に法人を設立した総合美容サロンである。代表取締役である石原美良子（以下、「石原氏」という）氏は、昭和52年に個人事業主として化粧品販売業を創業後、パリでサロンの研究を進め当社を設立するに至った。

当社の事業は、心も体も健康に保ち内面から美しさを取り戻すためのアロマやエステに加え、人生でとびきり輝く大切な日のためのブライダルエステ、毎日の肌のケアをサポートする自社のブランドコスメの販売、当社が長年実績を重ねた「アロマセラピー」を学ぶことができるアロマセラピースクールなど幅広いサービスをお客様に提供している。

【経緯】

当社では、「健やかでこころ豊かな人と社会づくり」を企業理念として従業員が笑顔で働ける職場作りを目指している。人事評価時には、石原氏と経営幹部が従業員一人ひとりと面談を行い、一緒に四半期ごとの目標を立案するなど様々な施策を実行してきた。しかし、面談時の評価基準と従業員個々の目標の達成に対する評価基準の連動がわかりにくく、人事評価に自身の実績や仕事への姿勢がどのように反映されているのかが伝わりにくい内容となっていた。今回、愛媛信用金庫に人事評価制度の見直しについて相談したことがきっかけで、チームえびすの専門家派遣事業を活用した連携支援を開始するに至った。

支援内容

スタッフのモチベーション向上を図り顧客満足度を高めていくため、人事評価基準の見直し及び従業員の目標設定シート等の作成に着手。人事評価基準を見直す際には、専門家より一般的な評価基準のサンプルの提供を受け、従業員の自己評価と面接時の経営幹部による評価について、評価基準の明確化に取り組んだ。

具体的には、エステサービス等の獲得に至るまでの過程に着目して評価する【プロセス評価】、仕事を進める遂行能力をベースに評価を行う【能力評価】、仕事に対する取組み意欲を評価する【情意評価】の3つの視点に分けて評価基準の見直しに着手。各項目の詳細は、在籍年数や経験、役職に応じて変更し、スタッフ一人ひとりが会社から求められる役割や従業員が成長するための目標設定のためのアドバイスを受けた。

支援の効果

今回の取組みは、評価基準の見直しを図るだけでなく、従業員のモチベーションを高めていくことで顧客満足につなげていくことを目的としている。そのため、評価内容のフィードバック時に従業員と面接する際の注意点や留意事項についてもアドバイスを受けることとなった。

【人事評価と目標との整合性】

本取組みを実施するまでは、従業員が自分の価値観を基に行動計画を立案していた。本取組みでは、人事評価の項目をもとに四半期の行動計画や目標を立案する制度を確立することができたため、会社が求める知識や能力を身に着けるために従業員が率先して行動するようになった。評価基準が明確化したことで、従業員は目標設定が行いやすくなるだけでなく、達成状況に応じて人事評価時の評価点がどのようにつながるかが理解でき、モチベーションの向上に繋がっている。

【具体的な行動計画及び四半期ごとの達成目標の提示】

代表である石原氏を含めた経営幹部は、従業員が設定した目標の達成基準が明確になり個々の目標の進捗状況の把握が可能になったため、評価に関する具体的な理由を従業員に伝えることが容易になった。また、従業員が目標を達成するためには、今後の行動をどのように変えていくべきか一緒に検討しアドバイスをすることができるようになった。

今後の展開

今回の取組みでは、従業員個々の目標や達成状況の把握ができただけでなく、従業員が心に抱えている悩みや問題の把握にも繋がるなど、従業員とのコミュニケーションの活性化に役立っている。

エステ業界では、女性が中心となって働いているが、結婚や出産を期に退職や引退をされることが多い。当社では、出産や育児・子育て中でも働きやすい勤務条件を提示し、子育て中でも継続して働ける環境づくりに取り組んできた。今後の展開としては、今回取り組んだことを活かし、従業員とのコミュニケーションを大切に、お客様と従業員が今まで以上に笑顔で楽しく過ごせる場所を目指していく。

事業者の声

スタッフのモチベーションを高める為、人事評価制度の見直しの必要性は実感しており、今までにも何度かチャレンジしていました。

一般的な見本を参考にしたり、アドバイスを受けながら作成していましたが、なかなか成果に繋がるものにならず悩んでいたところ、今回は、かなり細かい部分まで具体的に当社の内容に合わせたアドバイスをいただけたことで、納得がいくものが出来上がりました。今後も活用してまいります。ありがとうございました。



人事教育コンサルタント
川口 悦子

支援者の声

当社は、社員や顧客、地域から必要とされ「大切にしたい会社」と思われている企業に対して送られる【第8回四国でいちばん大切にしたい会社大賞】を受賞されています。今回の支援で、さらにより良い会社を目指していくためのお手伝いできて光栄です。これからも、頑張ってください。



愛媛信用金庫 三好 孝則

飲食店のコラボ商品開発と「高校での総合的な学習の時間」における学習活動の支援

支援機関 保内町商工会 支援内容 新商品開発と販売促進支援 支援区分 産学官連携

創作日本料理 吉左右（きっそう）

事業者概要

社名／創作日本料理 吉左右（きっそう）
代表者名／代表 廉田 勝夫（創業者）
業種／飲食業および食品製造業
所在地／八幡浜市保内町川之石
設立／平成9年12月
従業員数／1名



店舗外観

支援に至る経緯

■コロナ禍での事業取組について相談

1. コロナ禍での飲食店経営

支援事業所は、平成29年に愛媛県商工会連合会と愛媛県よろず支援拠点の支援を受け、人気メニューであった「鯛めし」を家庭でも楽しめるようにレトルト商品として開発し、地元道の駅などで販売していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、売上が減少していた。

2. 商工会の「地元高校生とコラボ!! 柑橘シロップで新メニュー開発プロジェクト」に参加

保内町商工会（以下、当商工会という）で、愛媛県の補助事業「地産地食プロモーション支援事業」を実施した。支援事業所は、地元の川之石高校で教育活動の一環として栽培された柑橘を用いたシロップを活用したコースメニューを開発し、顧客の減少に歯止めをかけた。

3. 川之石高校のGLOBALGAP 認証柑橘を使用したコラボ商品開発相談

支援事業所から、高校が栽培するGLOBALGAP 認証という付加価値をもった柑橘を使用したポン酢を作成したいと相談があり、吉左右、川之石高校、愛媛県よろず支援拠点、当商工会が協力して事業実施することになった。

支援内容

■ネットワークを活用したコーディネート支援

1. 愛媛県の「新型コロナウイルス感染症対応新ビジネスモデル展開促進事業（コロナ対応新ビジネスモデル補助金）」の申請および補助事業遂行支援

新商品開発に係る機械装置導入、賞味期限等の検査、試作品のラベル相談をワンストップで支援した。

2. 愛媛県よろず支援拠点を活用した商品開発ブラッシュアップ支援

関原雅人先生に、食品表示ラベルやラベルデザイン手法など総合的に指導して頂いた。

3. 「高校での総合的な学習の時間」における学習活動の支援

総合学科3年次生総合実習で、ポン酢製造実習、商品ラベルデザイン作成実習および販売実習を行った。

4. 地元密着型メディアを活用した販促支援

八西CATVさんに取材依頼し、商品開発から販売実習までのドキュメンタリー番組を作成して頂いた。

5. 地元事業所等との連携支援

印刷会社とのラベル作成会議と、地元道の駅の複合商業施設での販売特設ブース設置依頼を行った。

支援の効果

■事業者の売上増加、高校への学習活動支援、商工会と各機関の連携強化につながる

1. 支援事業所

補助金制度活用により、商品開発に係る設備購入費用等が軽減された。またCATV等の宣伝効果により、既存商品および新商品の売上が2ヶ月で20万程度増加した。さらに、専門家活用による商品開発ノウハウが蓄積され、事業所の知的資産が増加し、事業所の競争力強化に繋がった。

2. 地元高校

総合的な学習の時間におけるSTEAM教育活動支援および教科横断的授業の実施が総合学科3年次生19名の職業観育成につながった。

3. 商工会

地元CATVとの連携強化による、事業所PR力の向上および事業所と高校のネットワーク形成による地域の魅力向上に寄与した。



デザイン授業



ポン酢製造授業



販売実習授業



CATV番組

今後の展開

■当座の課題に加え、真の経営課題を「敬聴」によってトータル支援

1. 商品のブラッシュアップおよび生産体制の見直し

購入者の声を聞き取り、商品のブラッシュアップを実施し、事業継続可能な体制を検討する。

2. 真の経営課題の発見

ローカルベンチマーク等を活用し、事業所の潜在的な弱みと強みの発見に取り組み、競争力の源泉発見に繋げる。

3. 自己変革力の高い事業所への成長支援

経営者が自立的かつ持続的に経営環境の変化を乗り越えるコーディネート支援を実施する。

事業者の声

コロナ禍で飲食店部門の売上が減少し、何か手を打ちたいと考えていました。以前から川之石高校さんは、野菜を購入するなど仕入先として活用しており、いつかコラボ商品を作りたいと考えておりました。商工会さんや川之石高校さん、専門家の力を借りて魅力的な商品を開発することができました。今後も支援機関を活用し事業を継続していきたいと思います。



代表 廉田 勝夫

支援者の声

愛媛県よろず支援拠点の関原雅人先生をはじめ、県八幡浜支局の関係部署の方や川之石高校の先生方、八西CATVなど地元事業所のご指導やご協力があり、事業化することができました。

今後も事業主さんの夢を実現するための支援を続けていきたいと考えます。



経営指導員 近藤 智弘

地方からの発信

支援機関 西予市商工会

支援内容 新たな販路開拓

支援区分 販路開拓

スイーツ工房 絹

事業者
概要

社名/スイーツ工房 絹
 代表者名/代表 進藤 由紀子
 業種/菓子製造販売
 所在地/西予市野村町野村14-10



店舗外観

支援に至る経緯

スイーツ工房絹（以下、「当店」という）は地元西予市野村町にて平成25年9月に創業した菓子製造の店である。当初は店舗を持っておらず、両親の呉服店の一角に商品を陳列したり、地元の観光地に出張喫茶を出店していた。平成30年7月西日本豪雨災害を機に両親の呉服店のスペースを縮小し、本格的に商品の陳列ケースを置き、飲食が出来るスペースを整備したことにより、「呉服×スイーツ」の異色のコラボ（着物を眺めながらの飲食“いやし”）が話題を呼び、テレビ等のメディアからも取材を受けるなど、好評を得た。

また、SNSを活用した情報周知を積極的に行っているおかげで、町外のお客様が5割もあり、最近でも町外のお客様からの注文が増加傾向にある。しかし、店舗には冷凍の設備がなく、ケーキ等は日持ちしないことから、これまで泣く泣く注文を断ることも多々あった。そこで、今後はそのような注文にも対応できるように冷凍庫の導入することで販路開拓を図りたい。更にイベントに出店した際に当店をPR出来るものがなかったため、今回パンフレットの作成と当店のブランディング化を図るために当店オリジナルの紙袋を作成し、販路開拓を図りたいとの意向があり、支援を開始した。

支援内容

○持続化補助金をきっかけとした事業計画作成支援

当店を取り巻く現状を把握すること、経営課題を明確化することで取り組み内容を整理した。

- ・ 冷凍庫を導入することで市外又は県外のお客様にも商品を提供できるようになる。
- ・ 地元のグラフィックデザイナーと協力し、野村町をもっと多くの方に知ってもらいたいことや、商品に込めた事業主の思いを届けられるように意識してパンフレットを作成した。
- ・ スイーツ工房絹で購入したものだとわかるように、当店のロゴが入った紙袋を作成した。



導入した冷凍庫



作成したパンフレット



作成した梱包箱

支援の効果

補助金の採択により、円滑に事業が行われた。設備導入後は県外のお客様からの注文にも対応出来るようになった。効果を実感したのは一般社団法人西予市観光物産協会が行うお中元ギフトへ出品することが出来、実際に北海道、東京、大分や松山市、宇和島市からの注文にも対応できたこと。また西予市のふるさと納税返礼品へ登録も行う事が出来た。パンフレットについても好評で、知り合いに紹介したいからパンフレットが欲しいと言われることも多くなってきた。



お中元ギフトの掲載ページ



ふるさと納税返礼品のページ

今後の展開

今後は、現在SNSのDMや電話等で受注確認等を行っていることから、通信販売事業の整備を行い、業務の効率化による生産性の向上、販売力強化に努めたい。またイベント等に積極的に参加して当店をPRすることで新規顧客の獲得を目指す。

当店は新型コロナウイルス感染症の影響を受けない「ハレの日」需要がメインであることから、お客様を飽きさせないこと、リピーターが増えていくような商品を作り続けたい。

事業者の声

豪雨災害からの復興など色々な補助金、給付金の支援をしていただき、商工会の取り組みには大変感謝しております。

今後も皆さんを笑顔に出来る商品の提供、新商品の開発に取り組んでいきたいと思えます。また、少しでも多くの方に野村町を知っていただけるようなイベントなどをやっていきたいと思っています。今後もご支援の程、よろしくお願いいたします。



代表 進藤 由紀子

支援者の声

豪雨災害時から補助金等の申請を支援させていただきました。

そのことから、今回の補助金事業もスムーズに行うことが出来ました。

今後も販売力向上を含めた様々な取り組みについて、きめ細やかな(事業者に寄り添った)サポートを行って行きたいと思っています。



経営指導員 泉 高士

店舗移転支援とコロナ禍における飲食業の補助金活用支援

支援機関 愛南町商工会

支援内容 店舗移転支援と補助金活用支援

支援区分 事業再構築

鉄板かめお

事業者概要

社名／鉄板かめお

代表者名／代表者 竹田 万亀夫

業種／飲食業

所在地／南宇和郡愛南町城辺甲3842

設立／平成26年6月

従業員数／3名（アルバイト）



移転後の店舗兼住宅

支援に至る経緯

代表者は大学卒業後、大手食品スーパーでの鮮魚部門、外食全国チェーンの惣菜部門、お好み焼店の勤務を経て、平成26年6月に良質素材を使った鉄板焼き料理の店「鉄板かめお」（以下、当店という）を開業した。開店当初の立地は、国道56号線沿いでテナント集合物件、そして山に囲まれた景色に惹かれて旧一本松町での開業を選定した。

開業から5年、当店の名が愛南町内で浸透してきたことを契機に移転を決意した。決算の指導先で経営状況を把握しており、関わりがあったことから支援を開始した。支援を続ける中で発生した新型コロナウイルス感染症は飲食店のビジネスモデルであるイートインでの売上確保を困難としたことから、新たな販路、新事業展開を図る必要が出てきた。

支援内容

1. 店舗移転支援

- (1) 店舗移転に係る市場リサーチと移転計画の作成
- (2) 資金調達

2. 補助金活用支援

(1) 愛媛県の「新型コロナウイルス感染症対応新ビジネスモデル展開促進事業（コロナ対応新ビジネスモデル補助金）」

- ①事業計画書の作成
- ②事業推進
- ③事業実績報告
- ④商品化支援
- ⑤事業計画の見直し、検討

(2) 中小企業庁の「事業再構築補助金」

- ①事業計画書の作成



支援の効果使用画像



支援の効果

移転に伴う資金調達は円滑とはいえなかったが、地元金融機関と日本政策金融公庫の協調融資が実行され、令和2年9月に住居兼店舗の新築移転が叶った。新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受ける前に着手しており、正にコロナ禍の移転開業となったが、移転先は官公庁及び小・中学校が近く、商圈とする恵まれた好立地であり売上は増加している。

しかしながら、移転計画で掲げた売上予測を下回っており、飲食店のビジネスモデルであるイートインでの売上確保は今後も難しくなると予測される。来店客数の把握が難しい状況の中、適切な仕入管理を心掛けているが、仕入れロスの発生は免れず、課題となっていた食品ロスの削減と新たな販路の拡大を図るための機器の導入を、愛媛県の「新型コロナウイルス感染症対応新ビジネスモデル展開促進事業（コロナ対応新ビジネスモデル補助金）」の活用により実施した。

自店に合う機器を選定し導入したプラストチル・ショックフリーズは、①プラストチル（急速冷却）により、食品の安全と品質を保持、保存時間を向上させることが可能で、野菜類の保存に適し、②ショックフリーズは微細な氷結晶で解凍時に離水がほとんどなく、魚肉類を安全に鮮度や栄養価を保ったまま保存が可能である。原価率を抑えるために肉はブロック状で仕入れ、細部の部位への切り分けを自店で行っていた肉の管理が行えるようになったことは、従来に増して食材管理が徹底でき食品ロスの削減に大きく貢献している。

今後の展開

(1) 人気メニューの冷食化

急速冷凍機器・真空パック機の導入によって食材の品質を保持した状態での長期保存が可能となったことから、人気メニューの商品化に取り組む。商品は当店のSNSや愛南町商工会のECサイトでの販売、ふるさと納税商品への掲載により、全国へ販路を広げる。

(2) 隣接する土地を活用した新事業展開

母体事業の飲食事業がコロナ禍により売上が低迷している中で、新型コロナウイルス感染症拡大や景気に左右されることない視点を変えた新事業を展開し、飲食業と新事業との相乗効果が期待でき、併用雇用による安定的な雇用の場も確保できる。

事業者の声

税務支援がきっかけで支援がスタートし、その頃の自身の知識の無さ、力不足を痛感し、これからの展望を伝え、税務、労務はもちろんのこと、金融支援や周辺リサーチを含めた移転支援と、さまざまな分野で粘り強く対応してもらっています。

支援を受け、事業者として学ぶことが多く、事業もそして自分自身も成長していることを実感しています。

これからも挑戦し続けるために、継続した支援をお願いします。



竹田 万亀夫

支援者の声

金融機関の融資支援も受け、竹田さんの想いが詰まった新店舗を見る度に大変嬉しく思います。移転後はコロナ禍の影響により、厳しい状況が続いていますが、経営課題の解決のために日々取り組まれていることに感じます。

「食で笑顔」をモットーとし、商売を楽しみ、学びながら進化し続ける竹田さんを、今後も、時に優しく、時に厳しく支援していきます。



経営指導員 ヤング亜由美

田舎花屋から新ニーズに沿った “ボタニカルカフェ” への事業展開

支援機関 吉田三間商工会 **支援内容** 花屋から“ボタニカルカフェ”への事業展開に向けた事業計画の作成支援

支援区分 事業再構築

株式会社 ポピー

事業者概要

社名／株式会社 ポピー
 代表者名／代表取締役 二宮 祐介
 業種／花・植木小売業
 所在地／宇和島市吉田町東小路86番地
 資本金／1,000,000円
 設立／平成30年6月法人化
 令和2年8月現社長に事業承継
 従業員数／3名



フラワーカー

支援に至る経緯

株式会社ポピーは本店（吉田店）と宇和島支店の2店舗で花屋を運営していたが、宇和島支店が株式会社大見屋（しんばしスーパーマーケット）の経営破綻になり撤退を余儀なくされ、さらに新型コロナウイルス感染拡大により売上減少が顕著になっていた。

そんな最中にアフターコロナの中でも安定した経営を継続していく為、これまでの花屋の経験を活かせるボタニカルカフェの展開を考えるようになった。

前社長から長く吉田三間商工会（以下、当商工会という）とのつながりがあったため、中小企業庁の「事業再構築補助金」の申請のための事業計画の作成支援をしてほしいとの要望があった。

そのため、当商工会では愛媛県よろず支援拠点に連絡を取り、リモート相談会を開催するなどして中小企業庁の「事業再構築補助金」の申請支援を開始した。

支援内容

【事業再構築補助金申請のための事業計画作成支援】

愛媛県よろず支援拠点と連携し、中小企業庁の「事業再構築補助金」申請に向けた事業計画の作成支援を5月14日・5月31日・6月11日・6月25日の4回開催した。

当初から、新事業展開のため株式会社ポピーは事業計画を独自に作成していた。そのため、それをもとに中小企業庁の「小規模事業者持続化補助金」や愛媛県の「新型コロナウイルス感染症対応新ビジネスモデル展開促進事業（コロナ対応新ビジネスモデル補助金）」及び中小企業庁の「事業再構築補助金」などあらゆる施策の中から自社の適した施策の選定から支援が始まった。

その中で、フラワーカーの導入については愛媛県の「新型コロナウイルス感染症対応新ビジネスモデル展開促進事業（コロナ対応新ビジネスモデル補助金）」を活用することをアドバイスし申請・採択に至った。

支援の効果

<第2回目 事業再構築補助金（新事業展開）で申請…不採択>

<第3回目 事業再構築補助金（事業展開）で申請…不採択>

<コロナ対応新ビジネスモデル補助金申請…採択>

最大の目標であった中小企業庁の「事業再構築補助金」の採択には至らなかったが、当初株式会社ポピーが計画していた事業計画を専門家の意見と共にブラッシュアップすることができたのが大きな効果であった。特にこれまでしていなかったSWOT分析や現状分析や経営課題が明確にできたこと、なぜ「事業再構築の必要性」があるのかということ専門家のアドバイスのもといろいろな専門的な資料も基に合理的に把握できたことは、今後の事業継続のための大きな財産になったと考えられる。

今後の展開

当初から事業再構築の採択に至らなくても新事業を展開していく予定であったため、ポタニカルカフェのオープンに向け事業計画を進めていく予定である。

事業者の声

事業計画の作成から申請まで細かい所まで商工会担当者様には多くに支援をいただき大変感謝しております。事業再構築補助金の採択には至りませんでした。今回の作業を通して自分の会社を客観的に見直すことができ、これからの指標をはっきりした形で確認する事ができました。



株式会社ポピー

支援者の声

事業再構築補助金の採択には至りませんでした。これまでにはなかったリモート相談会の開催により事業計画の作成支援ができたことは今後の小規模事業者支援の大きな成果であったと思います。株式会社ポピーは新ビジネスモデル補助金の採択も受けているため、今後も継続した支援を実施していきたいです。



吉田三間商工会



「チームえびす」支援拠点名簿

※順不同

拠点名称	所在地	連絡先
公益財団法人えひめ産業振興財団	〒791-1101 松山市久米窪田町337-1	Tel 089-960-1100 Fax 089-960-1105
愛媛県中小企業団体中央会	〒791-1101 松山市久米窪田町337-1	Tel 089-955-7150 Fax 089-975-3611
四国中央商工会議所	〒799-0111 四国中央市金生町下分789-1	Tel 0896-58-3530 Fax 0896-58-6294
新居浜商工会議所	〒792-0025 新居浜市一宮町2-4-8	Tel 0897-33-5581 Fax 0897-33-5609
西条商工会議所	〒793-0027 西条市朔日市779-8	Tel 0897-56-2200 Fax 0897-56-2206
今治商工会議所	〒794-0042 今治市旭町2-3-20	Tel 0898-23-3939 Fax 0898-31-6667
松山商工会議所 愛媛県商工会議所連合会	〒790-0067 松山市大手町2-5-7	Tel 089-941-4111 Fax 089-947-3126
伊予商工会議所	〒799-3111 伊予市下吾川1512-6	Tel 089-982-0334 Fax 089-983-2227
大洲商工会議所	〒795-0012 大洲市大洲694-1	Tel 0893-24-4111 Fax 0893-23-3774
八幡浜商工会議所	〒796-0048 八幡浜市北浜1-3-25	Tel 0894-22-3411 Fax 0894-24-1405
宇和島商工会議所	〒798-0060 宇和島市丸之内1-3-24	Tel 0895-22-5555 Fax 0895-24-6655
愛媛県商工会連合会	〒790-0065 松山市宮西1-5-19	Tel 089-924-1103 Fax 089-922-0249
土居町商工会	〒799-0712 四国中央市土居町入野965-1	Tel 0896-74-5889 Fax 0896-74-8208
周桑商工会	〒791-0508 西条市丹原町池田1711-1	Tel 0898-68-7244 Fax 0898-68-3544
越智商工会	〒799-2205 今治市大西町宮脇甲1515-2	Tel 0898-53-3853 Fax 0898-53-6245
しまなみ商工会	〒794-2203 今治市宮窪町宮窪2822-9	Tel 0897-86-2130 Fax 0897-86-3792
上島町商工会	〒794-2410 越智郡上島町岩城1388	Tel 0897-75-3074 Fax 0897-75-3272
北条商工会	〒799-2432 松山市土手内125-1	Tel 089-993-0567
中島商工会	〒791-4501 松山市中島大浦3054-16	Tel 089-997-0218 Fax 089-997-0569
東温市商工会	〒791-0211 東温市見奈良495-3	Tel 089-964-1254 Fax 089-964-3938
久万高原町商工会	〒791-1201 上浮穴郡久万高原町久万188	Tel 0892-21-2061 Fax 0892-21-2361
松前町商工会	〒791-3110 伊予郡松前町大字浜809-1	Tel 089-984-1427 Fax 089-985-0913
砥部町商工会	〒791-2132 伊予郡砥部町大南394	Tel 089-962-2148 Fax 089-962-6695
双海中山商工会	〒791-3205 伊予市中山町中山丑285-1	Tel 089-967-0197 Fax 089-967-1562

拠点名称	所在地	連絡先
長浜町商工会	〒799-3401 大洲市長浜甲1030-3	Tel 0893-52-0312 Fax 0893-52-1526
川上商工会	〒797-1504 大洲市肱川町山鳥坂32	Tel 0893-34-2531 Fax 0893-34-2871
内子町商工会	〒791-3301 喜多郡内子町内子1502	Tel 0893-44-2166 Fax 0893-44-4936
保内町商工会	〒796-0201 八幡浜市保内町川之石3-25-3	Tel 0894-36-0519 Fax 0894-37-2045
伊方町商工会	〒796-0301 西宇和郡伊方町湊浦846	Tel 0894-38-0809 Fax 0894-38-0809
西予市商工会	〒797-0015 西予市宇和町卯之町3-297	Tel 0894-62-1240 Fax 0894-62-5800
吉田三間商工会	〒799-3703 宇和島市吉田町東小路甲96-1	Tel 0895-52-2233
津島町商工会	〒798-3301 宇和島市津島町岩松807	Tel 0895-32-2215
鬼北町商工会	〒798-1342 北宇和郡鬼北町大字近永1214	Tel 0895-45-0813
松野町商工会	〒798-2101 北宇和郡松野町大字松丸455	Tel 0895-42-0505 Fax 0895-42-1800
愛南町商工会	〒798-4110 南宇和郡愛南町御荘平城2298-1	Tel 0895-73-0700
公益財団法人えひめ東予産業創造センター	〒792-0060 新居浜市大生院2151-10	Tel 0897-66-1111 Fax 0897-66-1112
株式会社西条産業情報支援センター	〒793-0041 西条市神拝甲150-1	Tel 0897-53-0010 Fax 0897-53-0011
一般財団法人今治地域地場産業振興センター	〒794-0042 今治市旭町2-3-5	Tel 0898-32-3337 Fax 0898-32-8589
株式会社伊予銀行	〒790-8514 愛媛県松山市南堀端1番地	Tel 089-907-1074 Fax 089-921-3531
株式会社愛媛銀行	〒790-8580 松山市勝山町2-1	Tel 089-933-1111 Fax 089-933-1027
愛媛信用金庫	〒790-0002 松山市二番町4-2-11	Tel 089-946-1111 Fax 089-946-1134
東予信用金庫	〒792-0012 新居浜市中須賀町1-6-37	Tel 0897-37-1313 Fax 0897-34-8197
川之江信用金庫	〒799-0111 四国中央市金生町下分1089-1	Tel 0896-58-1300 Fax 0896-58-1304
宇和島信用金庫	〒798-0041 宇和島市本町追手2-8-21	Tel 0895-23-7000 Fax 0895-25-8632
愛媛県信用保証協会	〒790-8651 松山市千舟町3丁目3番地8 千舟町スクエアガーデン7～9階	Tel 089-931-2111 Fax 089-931-2107
愛媛県産業技術研究所	〒791-1101 松山市久米窪田町487-2	Tel 089-976-7612 Fax 089-976-7313
一般社団法人えひめ若年人材育成推進機構 ジョブカフェ愛Work(愛媛県若年者就職支援センター)	〒790-0012 松山市湊町四丁目8-13	Tel 089-913-8686 Fax 089-913-8685
一般社団法人愛媛県法人会連合会	〒790-0067 松山市大手町2-5-7 愛媛中小企業指導センター内	Tel 089-933-5596
愛媛県働き方改革包括支援プラザ	〒790-0067 松山市大手町2-5-7	Tel 089-915-3260 Fax 089-947-4251

成果事例を
参考にしてネ！

